

床暖房システムの構造と床材施工

床暖房下地へ床材を施工する事は、多くの問題点や注意点があり、最も困難な施工の一つです。

特に埋設型床暖房システムへの床材施工は、下地による要因が大きく、

施工方法等に最大の注意が必要となります。

床暖房使用による温度変化が引き起こす下地の伸縮や床材の伸縮が繰り返される事や、

下地の水分が一気に上昇する事、また、床暖房下地と非床暖房下地の温度差や下地表面に入るクラック、

そのクラックに対する補修方法等の問題点が挙げられます。

しかし、これらの問題点を解決する確実な方法はありません。

事前加熱や下地処理を行っても、多少の問題が発生する事をご理解下さい。

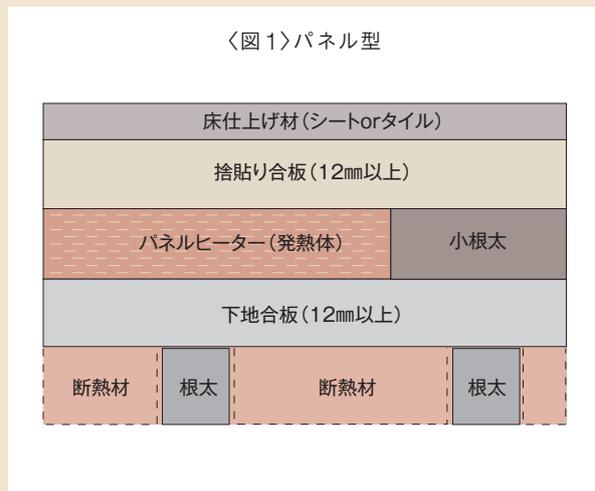
ここでは、当社が推奨する、トラブルを最小限に抑える為の施工方法について解説します。

■ 床暖房システム構造図

■ パネル型床暖房

- ① 東リ製品を施工する際は、厚み12mm以上の合板を捨貼りした下地が標準になります。
- ② 捨貼り合板を固定する受材(小根太)の間隔は300mm程度とし、捨貼り合板(厚さ12mm以上)を乱に継ぎ、小根太で突き付けとします。固定は38mm以上のスクリー釘を推奨します。釘の間隔は、継手部150mm程度、中間部200mm程度です。また、反応形接着剤の併用をお奨めします。
- ③ 捨貼り合板に、段差や目地スキがあった場合は、サンダーで段差を削り適切なパテを使い、平滑な面に補修してから施工して下さい。(詳細は施工技術書を参照して下さい。)

※パネルヒーター製造元の施工要領書がある場合は、それに従って下さい。



■ コンクリート埋設型床暖房

- ① 床材を施工する前に、HI-520-2型 D.MODEで440未満(=グレードI 水分指標8%以下)を目安に、使用温度+5~7℃程度で事前加熱を行い、クラックを充分に発生させて下さい。
- ② クラックの目安として0.3mm未満のクラックは補修せず、段差をサンディングした上で施工して下さい。
- ③ 0.3~1mmのクラックは、低粘度タイプのクラック補修材、1mm以上のクラックについては中粘度タイプのクラック補修材で補修して下さい。補修の際は、クラック沿いに幅3mm×深さ5mm程度の溝切りを行い、クラック処理を施して下さい。この時のクラック処理は、加温状態で行って下さい。(クラック補修材については、施工技術書を参照して下さい。)
- ④ 伸縮目地や誘発目地、カッター目地部には床仕上げ材を施工しないで下さい。

